

---

# 君とあたし

言

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君とあたし

### 【コード】

N0579P

### 【作者名】

言

### 【あらすじ】

どうしてあたしは生まれたの？ どうして君が生まれたの？ どうして二人が出会ったの？  
これは彼とあたしの小さなお話。

「どうして君は生まれてきたの？」

1 1 / 2 2      1 7 : 2 5

「どうして君は生まれてきたの？」

「生まれてきちゃ駄目だったかい？」

「別に」

「どうしてそんな事を聞くんだ？ おかしな奴だね」

「どうして？ そんなの怖いからに決まっている。」

「言っても何も変わらないから言わない」

「へえ、そうかい」

彼は納得できない、という目であたしを見る。  
当たり前か、あたしだってそうするかもしれない。

「ほら、バスが来たよ」

あたしはそれを指さして、にっこりと笑ってみせた。

「ああ」

つられて彼も微笑んだ。

「どうして君は生まれてきたの？」（後書き）

”君”と”あたし”のお話。

最後まで読んでくれたあなたに、あたしの何かを伝えられるようなものに仕上げたいです。

拙い文章ですが、最後までお付き合い頂ければ幸いです。

「おはよう」

1 1 / 2 3 0 7 : 0 6

「おはよう」

目覚めはいつも彼の声で。

「おはよう」

朝は嫌いだ。また一日を知らせる朝なんて、嫌い。  
だけど彼に起こされる朝は悪いものでもない。

とか言ってみる。

恥ずかしくて彼には言えない。

「愛してる」

「いきなりどうしたんだよ」

彼はあたしの顔を見て鼻で笑う。

こんな時彼は絶対に、「俺も愛してるよ」なんて言わない。

言葉一つ一つを大事にしている。

彼は返事のかわりに、あたしにキスをしてくれた。

「朝ごはん作ってくるね」

「おいしいの頼んだ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0579p/>

---

君とあたし

2010年11月22日01時57分発行